

平成 24 年 9 月 25 日

津市総合計画審議会
会長 武田 保雄 様

安濃地区地域審議会
会長 石 見 隆 浩

津市総合計画後期基本計画の策定に係る意見・提言について

現在、市で進めている平成 25 年度から平成 29 年度を計画期間とする津市総合計画後期基本計画の策定に係り、本審議会で今後の地域のめざすべき方向性等について協議を行い、以下のとおり、同計画の策定に当たっての当地域からの意見・提言をまとめましたので、同計画に係る津市長への答申においては、十分尊重していただきますようお願いいたします。

記

1 当地域がめざす姿として、次の目標を後期基本計画に明記されたい。

【目標】

少子高齢化が進む中、当地域においては、他地域と同様、独居世帯、高齢者世帯が増加傾向にあります。このため、当地域においても農業後継者不足の問題を抱えています。また、中山間部を有する地域でもあることから、獣害の問題が生じている点も他地域と共通であります。

このように、他地域と共通する事項は多々ありますが、今回特に当地域として、本市総合計画後期基本計画に反映させていただきたい最重要事項としては、河川管理を含む防災対策とスポーツ施設等地域の特性を活かした子育て、教育についてであります。当地域には、安濃川と穴倉川という河川が流れており、両川とも豪雨の際には、水位が上昇し、特に穴倉川流域付近の住民は常に避難の不安や危険にさらされています。自然環境の整備、河川の浚渫等により、水害の防止を図れるので、県に強く要望していくことが大切です。また、当地域には、地域内に影響を及ぼすと考えられる活断層が走っており、直下型地震が起きる心配もあります。

これらのことから、地域住民は防災に高い関心を持っており、住民と行政が一体となって取り組んでいくことにより、災害に強い安全で安心なまちづくりを目指します。

さらに、農業基盤の整備により利用集積や、大規模農業への転換を図り、また、スポーツ施設を利用したソフト面を充実することで、住民の体力向上を図り、地域全体を活性化し、明るいまちづくりを目指します。そのためには、

将来を担う地域の子どもたちを地域全体で大切に育み、守ることによって、郷土を愛し、地域の大きな原動力になるような「人」づくりに取り組みます。

安濃地域の山、川、豊かな自然を大切にしながら、環境に配慮した人に優しいまちづくりに地域全体で取り組んでいきます。

2 地域課題については、次の点に留意されたい。

(1) 当地域を流れている安濃川と穴倉川は、土石が堆積しており、豪雨時に水量が増えると、氾濫する危険にさらされる。特に、安濃川は安濃ダムの放流に伴い、水位が一気に上がる可能性があり、このことが付近の住民を不安にしている。河川の維持管理については、三重県にも毎年要望しているところであるが、なかなか整備されるに至らない状況である。また、地域内に影響を及ぼすと考えられる活断層が少なくとも2本走っており、これにより直下型地震の起きる心配がある。

(2) 子どものうちから、教育の中で、農業、山林、スポーツ施設、温泉という安濃の持つ特性を意識できるようにしていくことが大切である。

子育て、教育をもっと幅広い観点から据えるべきである。地域の力を活かし、家庭と地域が一体となって、人と人とのつながりを大切にした取り組みが必要である。

3 地域かがやきプログラムについては、次の施策を掲げられたい。

(1) 当地域は、北部エリアの中で真ん中に位置し、地域の西に立地する「経ヶ峰」において、毎年「経ヶ峰ハイキング」事業を実施しているが、今後はこれに「あのを温泉」も取り込んだ事業を展開し、山にもっと人を呼び込めるような施策とする。

(2) 当地域は、安濃中央総合公園内に6施設、及びその周辺にも2施設の体育施設を有することから、これまでもスポレクチャレンジ、体育祭等の事業を行ってきているが、今後はこれらの施設の更なるソフト面での活用を促し、若者から高齢者までスポーツを通じて健康の増進を図ると共に、地域全体を活性化できる施策とする。

(3) あのを「光れ！しかけ花火」まつりのように、子どもから高齢者まで誰もが参加でき、地域活性化に資する施策。